

隔月刊誌
[エヌファ]

NPhA

NPhA

Three-way Conversation

特別
鼎談

薬局・薬剤師は予防に特化し
検査・ワクチン接種を守備範囲に
薬局を災害用医薬品の備蓄基地に活用し国は保管料の一部負担を

衆議院議員
渡嘉敷 奈緒美氏（薬剤師）

一般社団法人 日本保険薬局協会 副会長
柄澤 忍氏（薬剤師）

一般社団法人 日本保険薬局協会 副会長
松野 英子氏（薬剤師）



Special Feature

〔特別企画〕

令和8年度 日本保険薬局協会 新任常務理事・理事に聞く
薬剤師の専門性が正当に評価される制度構築を

Visiting

〔訪問シリーズ〕 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師

地域で活動する医療・介護職への
正しい知識啓発が認定薬剤師の役割

薬樹株式会社 薬樹薬局三ツ沢（神奈川県）

New President's Message

新会長就任のご挨拶

薬局・薬剤師の価値を
エビデンスとともに
社会に発信

一般社団法人 日本保険薬局協会

会長 藤井 江美



4 New President's Message

新会長就任のご挨拶

薬局・薬剤師の価値をエビデンスとともに社会に発信

一般社団法人 日本保険薬局協会 会長 藤井 江美

6 Three-way Conversation

特別
鼎談薬局・薬剤師は予防に特化し
検査・ワクチン接種を守備範囲に

衆議院議員

渡嘉敷 奈緒美氏

一般社団法人 日本保険薬局協会

副会長 柄澤 忍氏

一般社団法人 日本保険薬局協会

副会長 松野 英子氏

13 Special Feature

特別企画 令和8年度 日本保険薬局協会 新任常務理事・理事に聞く
薬剤師の専門性が正当に評価される制度構築を

20 Visiting

訪問シリーズ 「HIV感染症薬物療法認定薬剤師」

地域で活動する医療・介護職への正しい知識啓発が認定薬剤師の役割

薬樹株式会社 (神奈川県)

神奈川事業部 神奈川グループ マネジャー

石川 文規氏 (薬剤師)

薬樹薬局三ツ沢 (神奈川県横浜市)

ストアマネジャー

三角 康樹氏 (管理薬剤師)

薬樹薬局三ツ沢

田橋 美佳氏 (HIV感染症薬物療法認定薬剤師)

12 Regular General Meeting

[日本保険薬局協会] 令和8年度定時総会を5月20日開催

19 Workshop

NPhAワークショップ 開催レポート

23 Local Circumstances

NPhA 都道府県担当者に聞く地域事情 [福岡県]

株式会社タカラ薬局 店舗統括本部薬事部長 上妻 弘明氏

24 Beyond The Sea

米国&英国からのレポート 「適応外医薬品の現状」

アメリカ 高額薬では保険請求が認められない場合も 大野 真理子氏

イギリス 医療費削減の目的から国が使用推奨する例も 國分 麻衣子氏

28 At The Top

地域のトップランナー 有限会社仁成堂 (山口県)

30 Diary

薬局管理栄養士ダイアリー

株式会社サッポロドラッグストア (北海道) 調剤運営部 調剤店舗運営 管理栄養士 林 侑利奈氏

32 Partnership

薬剤師との連携を目指して

株式会社なの花九州 さくら薬局 JR 久留米駅ナカ店 (福岡県) 高田 麻衣氏

33 NPhA 新会員紹介 / 認知症研修認定薬剤師制度 第10回認定試験スケジュール

34 編集後記



協会ロゴマークの由来

協会ロゴマークは、私たちの仕事である調剤業務に古くより使用されている重要な器具・薬匙 (スパーテル) を基本にあしらい、さらに日本保険薬局協会の英名 Nippon Pharmacy Association の略である NPhA を薬匙の上に広げて重ね、空を翔ける鳥のようにイメージしました。今後、日本保険薬局協会が大きく羽ばたき成長するよう、希望を込めて作成されています。

好評連載

薬局・薬剤師の価値をエビデンス 多様な人材が能力を発揮できる業界づくりに

このたび、2026年度より日本保険薬局協会の会長を拝命いたしました、アイセイ薬局代表取締役社長の藤井江美でございます。

日本保険薬局協会は国民皆保険制度のもと、地域医療を支える保険薬局の健全な発展と、薬剤師の専門性の確立・向上を目的として、長年にわたり活動を続けてまいりました。その歴史と社会的責任の重さを改めて胸に刻み、会長としての職責を全うしていく決意でございます。

私は薬剤師として調剤薬局の現場に勤務し、患者さまやご家族、医療・介護に携わる多職種の方々と日々向き合ってきました。現場では、薬剤師の専門性が患者さまの安心や治療効果の向上に直結する場面を数多く経験すると同時に、患者さまに寄り添うことの難しさや、重要性を実感してきました。また制度や評価、実務との間に存在する課題も実感してきました。

日本保険薬局協会においては副会長として、行政との意見交換や各種会議に出席し、会員の皆さまの声を団体としての意見にまとめ、発信する役割を担ってまいりました。こうした経験を通じ、現場と制度の双方を見据えた視点の重要性を、改めて認識しております。

本協会において、女性として初めて会長を務めさせていただくこととなりましたが、これは個人としての出来事にとどまらず、薬局・薬剤師の多様なキャリアや役割が社会に認識されつつあることの表れであると受け止めています。今後は、性別や働き方にかかわらず、多様な人材が能力を発揮できる業界づくりにも、取り組

んでまいります。

調剤報酬改定は 薬局機能の適正な評価を

現在、薬局業界を取り巻く環境は、大きな転換期にあります。2026年度調剤報酬改定は、人口構造の変化や医療提供体制の持続可能性が問われるなかで、「対物業務から対人業務へ」「地域包括ケアの深化」「医療人材の確保・処遇改善」といった政策の方向性を、改めて明確に示した改定であったと受け止めています。

今回の改定では、医療従事者全体の賃上げを支える観点から、薬局・薬剤師についても一定の配慮がなされました。物価上昇や人材確保競争が激化するなか、薬局が安定的に地域医療を支え続けるためには、働く人の処遇改善が不可欠であり、そのための原資確保に向けた評価が行われたことは、重要な意義を持つものと考えています。この点については、関係各位のご理解とご尽力に、業界として深く感謝申し上げます。

一方で、改定全体を俯瞰すると、薬局の経営環境、とりわけチェーン薬局を取り巻く状況は、必ずしも楽観できるものではありません。対人業務の基盤となる対物業務においては、医薬品の供給不安がなお継続する一方、薬剤手配に伴う業務負担や制度の改定に伴う業務負担に対する評価は、十分ではないと認識しています。さらに、立地要件が重視される場面も多く、薬局が実際に果たしている機能や役割が、必ず

とともに社会に発信 取り組む

一般社団法人 日本保険薬局協会
会長 藤井 江美



しも十分に評価へ結びついていないという課題も残されています。

また今回の改定では、かかりつけ機能の発揮、対人業務の充実、地域医療との連携、在宅医療への対応など、これまで薬局が積み重ねてきた取り組みに対して一定の評価は示されたものの、その水準が薬局経営全体を下支えするまでには至っていないと受け止めています。とりわけ複数店舗を展開する薬局では、人材育成やICT投資、業務の標準化・高度化といった将来を見据えた取り組みを進める一方で、それに伴う負担も増しています。医療DXの推進についても、制度上の位置づけは明確になりつつあるものの、導入・運用に要する現場負担やコストに見合う評価は、なお途上にあると認識しています。今後、薬局が医療に関する情報のハブとして機能し、医療の質と効率性の向上に貢献していくためには、こうした取り組みの価値が適切に評価される仕組みの構築が不可欠です。こうした状況を踏まえると、2026年度調剤報酬改定は、「一定の前進を含みつつも、次の改定に向けた課題を明確に示した改定」であったと言えるのではないのでしょうか。

協会の羅針盤 「薬局・薬剤師ビジョン2040」

2028年度調剤報酬改定に向けては、薬局・薬剤師が地域医療において果たしている役割を、客観的なエビデンスをもって示し、その成果と価値を社会に伝えていくことが、これまで

以上に重要となります。そのための指針として、日本保険薬局協会では「薬局・薬剤師ビジョン2040」を策定いたしました。本ビジョンは、2040年を見据え、薬局が地域において果たすべき役割や、薬剤師に求められる専門性の方向性を示したものです。理念にとどまらず、今後の制度議論や政策提言において、私たち自身が拠り所とすべき羅針盤であると考えています。

今後は、このビジョンを具体的な活動へと落とし込み、薬局・薬剤師が国民から信頼され、地域にとって「なくてはならない存在」として評価されるよう、協会一丸となって取り組んでまいります。そのためには、会員の皆さまお一人おひとりのご理解とご協力が欠かせません。現場の実践や課題をぜひ共有していただき、ともに業界の未来を形づくっていきたいと考えております。

日頃より日本保険薬局協会の活動を支えてくださっているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。会長として、皆さまの声に真摯に耳を傾け、薬局・薬剤師の価値向上に向けて全力で取り組む所存です。引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

1994年日本大学薬学部卒業。薬局勤務を経て、1997年アイセイ薬局入社。店舗での勤務経験ののち学術研修部（現「薬事・研修部」）、内部監査室、人材開発部などさまざまなキャリアを経て、2013年7月に初の女性取締役。その後、代表取締役副社長を経て2015年2月代表取締役社長就任。2026年5月日本保険薬局協会会長就任



特 別 鼎 談

渡嘉敷奈緒美氏を囲んだ柄澤忍氏（左）と松野英子氏

薬局・薬剤師は予防に特化し 検査・ワクチン接種を守備範囲に 薬局を災害用医薬品の備蓄基地に活用し 国は保管料の一部負担を

衆議院議員 **渡嘉敷 奈緒美** 氏（薬剤師）

一般社団法人 日本保険薬局協会
副会長 **柄澤 忍** 氏（薬剤師）

一般社団法人 日本保険薬局協会
副会長 **松野 英子** 氏（薬剤師）

2005年に衆議院議員に初当選した渡嘉敷奈緒美氏は、今年2月に
行われた衆議院議員選挙で当選、5期目に入りました。長く薬剤師の
声を代弁してきた同氏はコロナ禍などの経験を踏まえ、薬局・薬剤
師は予防に特化し、検査・ワクチン接種を自らの守備範囲に収める
べきと主張します。併せて、薬局を災害用医薬品の備蓄基地として
活用する考えも示し、保管料の一部を国が負担する仕組みを提案し
ました。

政策を体感できる 「北大阪健康医療都市」

柄澤 これまで厚生労働副大臣や
環境副大臣、衆議院厚生労働委員長
などを歴任されてきました。政治に
関わるようになってから、大切にさ
れてきたお考えをお聞かせくださ
い。

渡嘉敷 国民の声を代弁すること
が国会議員の仕事ですから、政策や
夢を語ることはとても大事だと思っ
ています。併せて、理想を言葉で語
るだけでなく、それらをリアルに見
られる、触れられる場所作りも重要
だと考えてきました。そのため、政
策を体感できる場が欠かせないと考
え、街づくりにも力を入れてきまし
た。その具体例の一つが「北大阪健
康医療都市」、いわゆる「健都」構
想です。大阪府吹田市と摂津市にま
たがる「健都」は、国際級の複合医
療産業拠点を目指しています。国立
循環器病研究センターや医薬基盤・
健康・栄養研究所、さらには市立吹
田市民病院など健康・医療に関わる
産業が集積しています。

柄澤 私も最近、「健都」に行っ
てきました。大きな病院があり、そ
こにはコミュニティーが形成され、
医療が新しく変化していることを実
感してきました。

渡嘉敷 「新しいことが起こりそ
うだ」とワクワクしていただくこと
が大事だと思っています。しばらく
議員を離れたことでブランクができ
てしまいましたが、今回の選挙で再
び応援できる立場に戻りましたの
で、これからギアアップして「健都」
の拡充に尽力するつもりです。

松野 薬剤師という職業について
は、どのように受け止めてこられま
したか。

渡嘉敷 患者さんから「ありがと
う」と言ってもらえる仕事になって
ほしいと考えてきました。薬局の現
場に立って思ったのですが、やはり
「ありがとう」と言われると、「患者
さんのお役に立てた」と実感できま
すし、やる気も出ます。そう言って
もらえるように、どのように立ち回
っていくかを薬剤師は、もっと意識
しても良いのではないかと感じてい
ます。「ありがとう」と言ってもら
えるように、仕事のやり方を考え直
すことも必要だと思っています。

松野 確かに、薬局は患者さんと
の距離が近いですから、比較的、言
ってもらいやすい環境なのに、それ
を生かし切れていないのかもしれま
せんね。

渡嘉敷 そうなのです。私が薬局
に入って感じたのは、仕事がルーチ
ン化して流れ作業のようになってし

まっていることでした。患者さんに
とって薬局薬剤師は、1日の最後に出
会う医療者なのです。いろいろな
臨床検査の後に医師の診察を受け
て、薬局で薬を受け取る。そこで患
者さんが、「今日は良い一日だった」
と締めくくれるような応対を薬剤師
ができれば、患者さんにとってその
日は、幸せな1日になります。私は、
薬剤師の仕事のはざまに、「ありが
とう」という言葉を貰うために、他
にやるべきことが多くあるような気
がしています。

柄澤 「ありがとう」という言葉
は、みんなを幸せにしますからね。

冷暗貯蔵設備ある薬局が ワクチン接種には最適

松野 2月に行われた衆議院議員
選挙で当選され、5期目を迎えられ
ました。どのような抱負をお持ちで
しょうか。

渡嘉敷 薬局・薬剤師に関して言
えば、活躍の場をもっと増やしてい
きたいと思っています。その心はズ
バリ、薬局・薬剤師は予防に特化し、
治療は医療機関・医師にお任せした
ほうが良いと考えています。

医療の中で薬局・薬剤師の役割を
考え直すヒントになったのが、私に
とってはコロナ禍でした。医療が大
混乱したあの時、薬局が抗原検査キ
ットを販売できるように働きかけを
行いました。その経験を通して思っ
たのですが、予防は薬局の強みを最
大限に発揮できるということでした。

当時を思い起こしてみると、当初
は医療機関がワクチンを打つだけで
なく検査をして、治療も行っていま
した。医療機関の守備範囲が不明確

地域で活動する医療・介護職への正しい知識啓発が認定薬剤師の役割

高齢化進むPWH (people with HIV)、疾患への偏見から施設入所、在宅医療で辛苦

薬樹株式会社 (神奈川県)

神奈川事業部 神奈川グループ マネジャー

石川 文規氏

(薬剤師)

薬樹薬局三ツ沢 (神奈川県横浜市)

ストアマネジャー

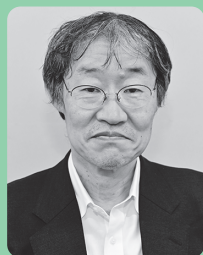
三角 康樹氏

(管理薬剤師)

薬樹薬局三ツ沢

田橋 美佳氏

(HIV 感染症薬物療法認定薬剤師)



聞き手

日本保険薬局協会
専務理事

柳楽 晃洋氏

薬樹薬局三ツ沢は、エイズ治療中核拠点病院である横浜市民病院内に隣接しています。2012年にHIV感染症薬物療法認定薬剤師の認定を取得した田橋美佳氏は、2週間おきに同病院のカンファレンスに参加し、病院との連携を深めています。

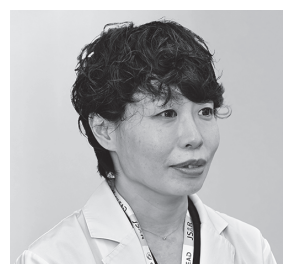
同氏は、「HIV感染症は偏見や差別が今なお残る疾患」と話し、医療・介護職の間でも、正しい知識が十分には浸透していないと指摘します。高齢者施設の入所や在宅医療への移行時に、根強い誤解がHIV陽性患者 (people with HIV (以下PWH)) を苦しめている実情を明かします。だからこそ、地域で活動する医療・介護職への正しい知識の啓発が、HIV感染症薬物療法認定薬剤師の役割だと強調します。

病院のカンファレンスに参加

——薬樹薬局三ツ沢は、専門医療機関連携薬局と地域連携薬局の認定を受けておられます。HIVだけでなく、がん治療に詳しい薬剤師も在籍しておられるのですか。

田橋 私が、日本臨床腫瘍薬学会の外来がん治療専門薬剤師 (BPACC) の認定を受けています。その他の資格としては心不全療養指導士、循環器病エキスパートアドバイザー、ケアマネジャーなどを持っていますが、すべてHIV感染症薬物療法認定薬剤師の認定が原点で、その後、必要性を感じて取得したものです。私の担当だったHIV陽性患者さんががんを併発したにもかかわらず、がん治療の知識がなく介入の仕方さえ分かりませんでした。それがきっかけとなりがん領域の勉強も始めて、BPACCの認定を取得するこ

とにつながりました。また、ケアマネジャーの資格も、実際に患者さんのご家族から介護相談を受けることが増え、施設の職員やケアマネジャーと連携をとることに必要性を感じて取得に至りました。



田橋美佳氏

——HIV・エイズの治療において、横浜市民病院と薬局の役割はどのように分担しているのですか。

田橋 わが国の新規報告数 (HIV感染者とエイズ患者の合計) は年間900～1,000人程度で、そのうち約3割がエイズ発症の段階で診断されています。そうした方々はどうしても入院が必要で、免疫機能の低下にともなう日和見感染症の治療と、抗HIV療法の導入などを病院で行います。その後、退院し普段の生活に